

【編集・発行】
 2019年3月25日発行
 千葉県北千葉道路建設事務所
 〒286-0017 成田市赤坂2-1-14
 TEL:0476-28-1411

Ⅱ期区間工事実施中!!



仮設土屋橋の整備状況(平成31年2月撮影)

Ⅰ期区間暫定2車線開通



平成31年3月3日開通式



北千葉道路の主な整備効果

- その1. 広域道路ネットワークの強化・物流効率化の支援
～地域活性化の実現～
- その2. 交通処理能力の向上・成田市街地の交通円滑化
- その3. 救急医療・防災機能の強化

周辺道路の交通円滑化



全線が開通することにより、成田市内の幹線道路の渋滞緩和はもとより、都心・首都圏北部・東葛地域と成田空港とのアクセスが向上し、成田空港の更なる機能強化とも相俟って、空港周辺地域への企業立地や観光振興等による経済効果が大きいと期待される。(成田商工会議所)

現道の状況

① 成田市北須賀付近
 大型車が多い!
 幅員が狭い!
 見通しが悪い!

整備後

③ 松崎インター付近
 幅員が広く、走りやすい道路に
 通過交通が流れ、生活道路の
 円滑な交通に寄与。

北千葉道路を軸に進むまちづくり!



成田空港を利用するインバウンド及びネットワーク構築による周辺住民流入に伴う商業活動の活性化が期待される。その波及効果が大型商業施設だけではなく、中小企業及び小規模事業者にも及ぶように支援していきたい。(印西市商工会)

成田空港の更なる機能強化を進める中で道路アクセス強化は重要であり、物流及び人員輸送にとって大きな役割を果たすことが期待される。沿線北総地域(成田、印西地域)の発展(成田市への観光客誘致への期待)が見込まれる。(成田市観光協会)

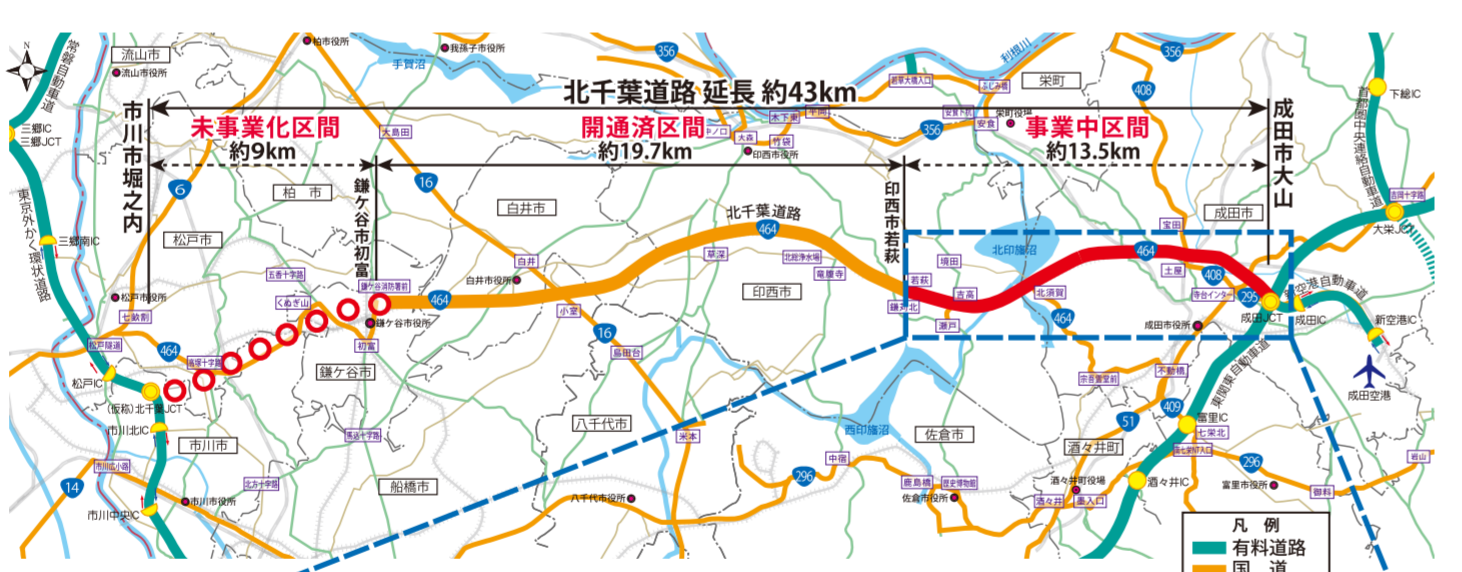
首都圏から成田空港へのアクセスが向上することにより、観光客を始めとした人の流入が見込まれ、北千葉道路周辺地域の活性化が見込まれる。配達物やバス・タクシーといった人を運ぶ乗り物の効率性が良くなることにより、働き手に対する負担軽減も見込まれる。(成田青年会議所)



北千葉道路とは

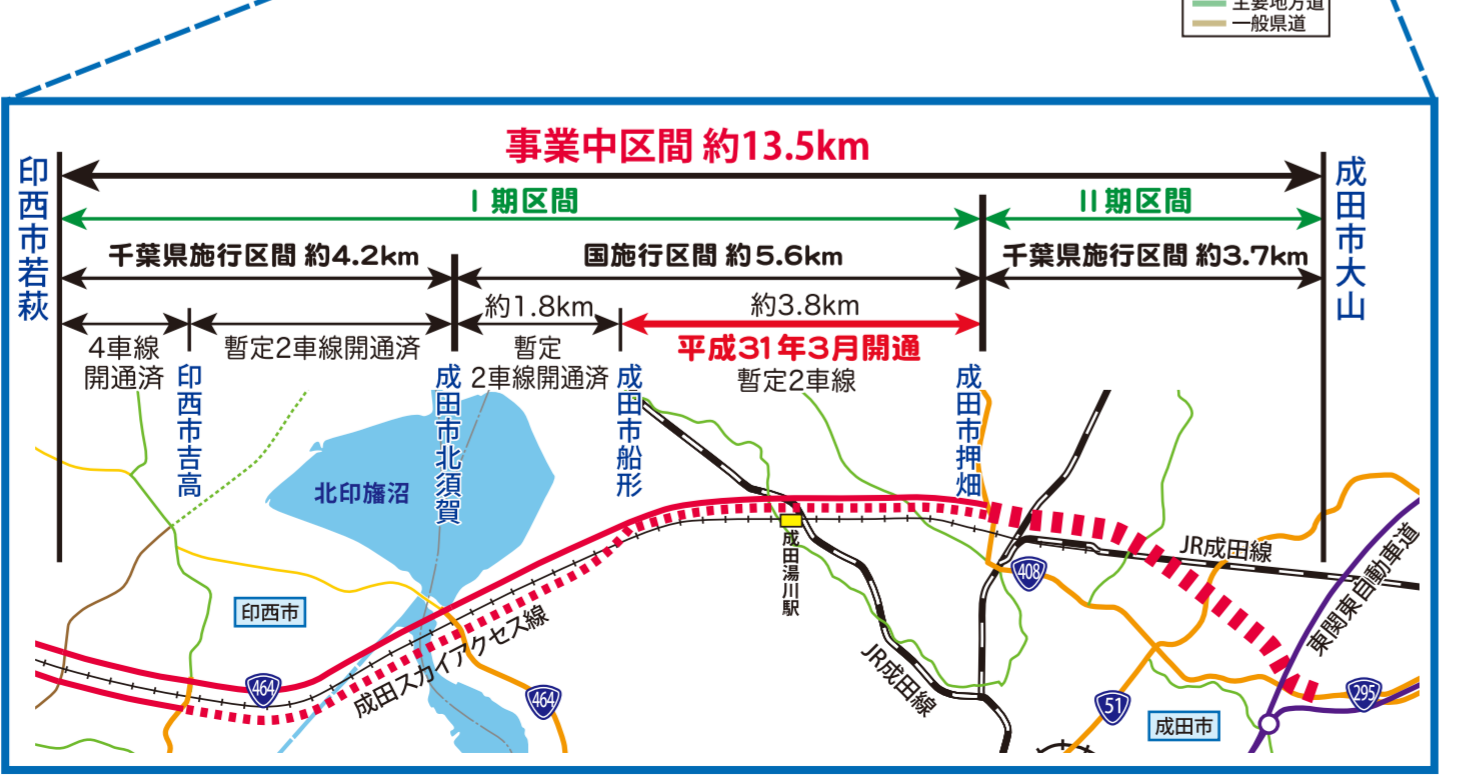
一般国道464号は、常磐道と東関東道のほぼ中間に位置し、平成30年6月2日に開通した外環道(千葉県区間)から千葉ニュータウンを経て、成田空港までを最短で結ぶ延長約43kmの幹線道路です。北千葉道路の整備により、沿線地域の慢性的な交通混雑の緩和や首都圏の国際競争力の強化に資するとともに、災害時における緊急輸送道路として機能するなど、様々な効果が期待されます。

北千葉道路の概要



北千葉道路(印西～成田間)の整備状況

北千葉道路(印西～成田間)約13.5kmのうち、印西市若萩から成田市押畑までのⅠ期区間約9.8kmが平成17年度に、残る成田市押畑から大山までのⅡ期区間約3.7kmが平成19年度に、それぞれ事業着手しました。Ⅰ期区間については、現在、県と国が分担しながら事業を行っており、起点部となる印西市若萩から成田市北須賀までの約4.2kmを県施行区間として、続く、成田市北須賀から押畑までの約5.6kmを国施行区間としてそれぞれ整備を進めています。Ⅱ期区間については、平成29年2月19日に、国施行区間についても平成31年3月3日に暫定2車線で開通しています。Ⅱ期区間については、全線を県施行区間として、早期開通を目指し、工事を進めているところです。



北千葉道路(印西～成田間)の計画概要

事業名：一般国道464号北千葉道路(印西市～成田市)
 起点：印西市(旧印旛郡印旛村)若萩地先
 終点：成田市大山地先
 延長：約13.5km
 道路規格：第3種第1級(設計速度80km/h)
 車線数：4車線
 主な交差道路：一般国道464号、408号、51号など

災害拠点へのアクセス向上!

北千葉道路周辺の災害拠点

北千葉道路周辺の災害拠点には、千葉県地域防災計画に位置付けられた広域防災拠点が多数。30分圏が拡大し、防災力の強化に寄与。

第1次緊急輸送道路である北千葉道路周辺には、千葉県地域防災計画に位置付けられた広域防災拠点が多数。30分圏が拡大し、防災力の強化に寄与。

被災地への迅速なDMATの派遣を支援
 ※DMAT: 災害派遣医療チーム

30分圏人口 約1.9万人増加

出典：ETC2.0ロードデータ(全日経路120時間平均速度)
 ※北千葉道路の今回開通区間は60km/hを適用
 出典：1:42万道路図(2015年10月現在、国土院)

成田空港から基幹災害拠点病院への所要時間

